

◆第10回 物語文の分析的読解(3) / 語句10 (慣用句2)

文章題では物語文を学習します。この回では、特に文脈を正しくたどって、内容について問われたことを正しく説明するやり方について学習します。

語句は前回に続き慣用句の学習をします。特に「猫」・「気」を使った慣用句や、パズル系の問題を学習します。

◆第11回 物語文の分析的読解(4) / 語句11 (ことわざ1)

文章題では物語文を学習します。この回では、登場人物の人間関係について文脈から情報を集め、心情の変化を正しく読み取る学習をします。

語句はことわざの学習をします。ことわざには、似た意味のことわざ、反対の意味のことわざがあるので、あわせて覚えるようにします。

◆第12回 物語文の分析的読解(5) / 語句12 (ことわざ2)

文章題では物語文を学習します。この回では、特に場面に注意して、どんなできごとがあったのかを正確に読み取る学習をします。

語句はことわざの学習をします。前回同様、ことわざには似た意味のことわざ、反対の意味のことわざがあるので、あわせて覚えるようにします。

◆第13回 物語文の分析的読解(6) / 語句13 (外来語)

文章題では物語文を学習します。この回では、場面分けの問題をヒントに、主題がなんであったかを学習します。

語句は外来語の学習をします。日常生活の中でよく使われている外来語について、意味を確認しながら覚えます。

11月は「速さ」と「文章題」について学習します。「速さ」についての本格的な学習は5年生からになりますが、入試頻出分野ですので今のうちに基本的な考え方を身につけてほしいと思います。単に機械的に公式に当てはめるのではなく、根本的な速さの意味を理解してください。また、「文章題」については、必要な図や表を書きながら解くようにしましょう。

動画視聴時のお願い

まずは自分の力で問題を解いてから動画を見ることをおすすめします。ただし、その単元の内容に関する予備知識が全くない場合は、動画から先に確認していただいて結構です。その場合、動画視聴後にもう一度解き直すとより定着が良くなります。また、先に問題を解いて間違えた場合も、動画を確認した後で解き直しをしてください。お子様が「解く→直す」の学習姿勢を4年生のうちに身につけることも大切です。

◆第10回 速さⅡ

前回学習した速さの知識を使って、「進行グラフ」の問題に取り組みます。進行グラフは、最終的には自分の力で書けるようになることが必要ですが、4年生のうちは正しく読み取ることができれば十分合格です。まずはしっかりと読めるようになってもらいたいと思います。

○必ず押さえてほしい問題・・・1、2、3、6

○宿題・・・第10回補充問題

◆第11回 文章題Ⅰ

「和と差」についての文章題を学習します。どちらの問題も線分図を書いたり、ノートに条件をまとめてから解くことが基本となります。面倒と思わずにノートにしっかりと条件整理をしましょう。5年生になると学習内容がより高度になりますが、図や表が必要なことに変わりはありません。今のうちに「書きながら考えていく」習慣をつけてください。

○必ず押さえてほしい問題・・・1、2、4、5

○宿題・・・第11回補充問題

◆第12回 文章題Ⅱ

「過不足算」「差集め算」について学習します。この文章題は代表的な解法が2通りあります（「線分図を用いた方法」と「表のように数を書き並べて考える方法」）。2つの解法に優劣はありませんが、今回の動画では「表のように数を書き並べて考える方法」で解説をしています。特に線分図の解法にこだわりがなければ、まずは動画で解説している解き方をマスターしてください。

○必ず押さえてほしい問題・・・1、2、6、8、9

○宿題・・・第12回補充問題

◆第13回 文章題Ⅲ

「つるかめ算」を学習します。受験算数では非常に有名な問題で、今後も頻繁に出てくるのでしっかりと定着させてください。今回の動画では「表を書いて解く」方法と「面積図を書いて解く」方法を用いて解説しています。どちらも大切な解法ですので、両方とも理解できるようにしてください。

○必ず押さえてほしい問題・・・1、2、5、7

○宿題・・・第13回補充問題

◆後期第6回 文章題(5)

① 【例題】と【練習】

【例題】はすべて動画が用意されています。

【例題 1】 消去算の基本①

消去算は、一方の数量を他方と同じにして差をとることにより、一方を消去してそれぞれの数量を求める文章題です。

(1)のように、すでに片方の数量がそろっているとき、差をとれば、他方のちがいが代金のちがいに相当します。

(2)のように、どちらの数量もそろっていない場合は、片方の数量をそろえるために、一方のセットを何倍かして数量をそろえることによって、(1)と同様の操作ができます。動画をよく見て確実な作業ができるようにしてください。

【例題 2】 消去算の基本②

片方の数量をそろえるために、一方のセットを整数倍してもそろわない場合は、本問のように最小公倍数の数量になるように双方のセットを操作します。片方の数量がそろえば、あとは【例題 1】の(1)と同じ作業になります。

【例題 3】 置き換えの消去算

中学数学で習う「代入」と同じ作業になります。一方の数量について、もう一方と等価のものに置き換えて、扱う種類を1種類だけにします。

【例題 4】 3つの消去算

3種類の数量の和を考えて、条件のものと比較して求める方法です。動画をよく見て、作業できるようにしてください。

各【例題】の動画を見て理解したら必ず【練習問題】に自力で取り組んで答え合わせをし、間違っていたらどこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は再度【例題】の動画を見てみましょう。

② 【練成問題】

【練成問題】はほとんどの問題が動画で扱っていますので、その問題についてはしっかりと理解をしてください。また、頭の中だけで処理することはせずに、絵をかいたり図にまとめたりしながら考えるクセをつけましょう。

6は、問題文をうまく言い換えられるようにしましょう。ノート2さつはえんびつ何本と同じなのかを考えます。

7は、「B2個よりも20円安い」という部分に気をつけましょう。

⑨は、A を C に置き換えて、B と C だけの消去算に持ち込みます。

⑩は、3 つの消去算の応用になります。

③ 宿題などについて

【練成問題】の後【A 問題】、【B 問題】がありますが、ここは宿題となります。【B 問題】はレベルの高い問題もありますが、がんばって取り組んでみてください。

◆第7回 数論(1)

① 【例題】と【練習】

【例題】はすべて動画が用意されています。

【例題 1】 約数の個数

約数の個数に関する問題です。約数の個数をどのように数えるかは、詳細を5年生で学びますが、今は正確に約数を書き出すことと、約数の個数によってもとの数に特徴があることをつかみましょう。特に約数の個数が奇数個(例題では3個)である数については、動画を見てしっかり理解してください。

【例題 2】 倍数の判定法

動画で2, 3, 4, 5, 6, 8, 9の倍数の判定法について解説しています。納得したらこれらの判定法をすべて暗記してしまいましょう。「割り切れる」「割り切れない」といったことについては、これからの学習において瞬時に判断しなければならない場面が増えます。7の倍数判定法はあるにはあるのですが、作業が複雑で忘れやすいので、これについては実際に割り算をしてみてもそれほど時間的なロスはありません。その他、11の倍数判定法などは、たまに入試でも話題として見かけます。

【例題 3】 最大公約数と最小公倍数

すだれ算の考え方から解いていく問題です。何気なく使っている作業から求められる問題もあるのだということを意識してください。

【例題 4】 最大公約数の応用

2数以上の最大公約数と、それらの和や積からもとの数を求める問題です。(2)はまちがえやすい問題ですので、動画を見て注意点をしっかり理解してください。

各【例題】の動画を見て理解したら必ず【練習問題】に自力で取り組んで答え合わせをし、間違っていたらどこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は再度【例題】の動画を見てみましょう。

②【練成問題】

【練成問題】はほとんどの問題が動画で扱っていますので、その問題についてはしっかりと理解をしてください。

この中では5が要注意問題です。

④ 宿題などについて

【練成問題】の後【A問題】、【B問題】がありますが、ここは宿題となります。【B問題】はレベルの高い問題もありますが、がんばって取り組んでみてください。